

## ドイツ地域自転車展報告 -fahrrad.markt.zukunft-

標記展示会はドイツ国内ユーザー向けに年3回、11月に東部ライプツィヒ、3月に北部ブレーメン及び南部カールスルーエにてドイツを広範囲に網羅する形で開催されている。

### 1. ブレーメン会場

#### 【fahrrad.markt.zukunft. (Bremen)】

主催： MESSE BREMEN、velokonzept saade GmbH

会場： MESSE BREMEN

会期： 2009年3月7日(土)、8日(日) 10:00~18:00

使用ホール： 自転車、旅行・観光；ホール5 10,300 m<sup>2</sup>

アウトドア、フィットネス；ホール4 4,300 m<sup>2</sup>

入場者数： 12,417人(前年11,500人)

出展社数： 自転車67社、旅行・観光37社、アウトドア18社、フィットネス6社



会場正面



ホール5の様子

ブレーメン会場は、自転車単独の展示会ではなく「outdoor」ショーと併催であり、自転車関連企業の出展はホール5に集中していた。しかし、自転車出展社の占有率はホール5の半分程度であり、他4割は同時開催中のBTR競技大会場が広がり、残り1割を旅行・観光関連の出展社が占めるという出展構成であった。隣のホール4はアウトドア、フィットネス関連の出展社で埋まり、他にはロッククライミング体験コーナーなどであり、自転車企業や物品の展示は無かった。

主催者によると来場者は12,417人と前年より約8%増加した。それらの人々の半数はブレーメンから25km以上離れた地域からの来場である。主な自転車ブランドではアクセルグループのヘラクレスとWinora、ガゼレ、ベルガモント、コガ・ミヤタ、フライヤー、ラレー/ユニベガなどのシティ車、トレッキング車及び電動アシスト車を中心に展示されていた。今回、スポーツ車は少なく主なブランドはキャノンデールとフォーカスであった。その他、折りた

たみ車はリーゼ&ミュラー、ダホンであった。殆どの自転車は地元販売業者ブースにて出展され、いくつかのブースでは来場者向けに商品の即売も行われていた。ドイツ北部ではシティ車、トレッキング車が人気車種であり、今回の出展物にその消費者嗜好が反映されていた。



地元販売業者を通じて展示（左；リーゼ&ミュラー、右；ガゼレ）



少数派のスポーツ車（キャノンデール）



WinoraのEPAC

ブレーメン市は自由ハンザ都市として連邦州を成す人口 55 万、ドイツ第 10 位の都市である。更にここから約 100km 北東には人口 177 万、ドイツ第 2 位の大都市ハンブルクも控えている。現在、ドイツの主要自転車展は西部や南部地域での開催が多く、ドイツ北部地域の販売業者やユーザーを対象とする自転車展として、同地域を重視する企業にとって本催事の存在意義は高い。また、会場のメッセブレーメンはブレーメン中央駅に隣接しており交通利便性は非常に良好であった。

しかしながら、現状ではブレーメン及びその周辺の地域ユーザーを対象とした内容に留まり、海外企業が出展参加する国際ビジネスショーとは言いがたい。

次回は 2010 年 3 月 13 日、14 日の 2 日間、同会場にて開催予定である。

## 2. カールスルーエ会場

【fahrrad.markt.zukunft. (Karlsruhe)】

主催： Karlsruhe-Messen und Kongresse、velokonzept saade GmbH  
会場： Karlsruhe Kongresszentrum  
会期： 2009年3月21日(土)、22日(日) 10:00~18:00  
使用ホール： GARTENHALLE 6,200 m<sup>2</sup>  
入場者数： 6,300人(前年比5%増)  
出展社数： 82社



会場入口



ホール内部の様子



地元販売店ブースの展示即売の様子

カールスルーエ会場はブレーメンに比べ規模は小さいが自転車単独展であり、会場まではカールスルーエ中央駅からトラムで10分程度の距離にあった。ブレーメン同様、販売業者の小間では展示即売が行われていた。本会場ではブレーメンよりもスポーツ車の展示比率が高く、主なブランドとしてはスペシャライズド、スコット、シンプロン、ジャイアント、フォーカスなどのMTBやロードレーサーが揃っていた。トレッキング車や電動アシスト車ではケトラー、ステッペンウルフ、ガゼレ、コガ・ミヤタ、フライヤーなどである。スイスのスコット、オーストリアのシンプロンが中・高価格帯のスポーツ車を自ら多数出品している点は当地の地理的条件も示し、かつ南部地域の消費者嗜好を如実に物語っていた。今回は参観機会

を逃したが 11 月開催のライプツィヒ会場の動向についても、東部地域の消費者嗜好を知る上で注目に値する。

今回、主催者は様々なユーザー向けセミナーを用意していたが、その中に電動アシスト車のプログラムもあった。1日2回開催し1科目60分で、他プログラム以上に多くの聴講者が詰め掛けた。電動アシスト車は主にモーターユニット装着箇所（①前ハブ、②中央、③後ハブ）別に3タイプの実車が用意され、まず基本説明の後、それぞれの利点などが紹介された。最後の質疑応答は活発に行われ時間の都合で中断した程である。座席数を上回る200名超の聴講者が参加し立ち見も出る程の盛況振りであった。主な質問は充電方法、一回の充電での走行可能距離などであり、同車種について周知はまだ十分とは言えないが、従来、スポーツ車の人気が高い南部地域において、電動アシスト車への消費者の関心は着実に高まっている。



電動アシスト車セミナー（3タイプの実車で説明）

ドイツ南部は他地域に比べて自転車の平均販売価格も高く、同車の利点が認知されれば更なる販売増に繋がる可能性も秘めている。そのためにもこのような消費者に分かり易いプログラムは利用者層拡大に向けて効果的である。

主催者によると来場者の86%は今回の開催内容に満足し来年も訪れる旨回答している。また来場者の31%はカールスルーエから50km以上も離れた町から来ており、ブレーメン会場よりも広範囲から自転車に関心を持つ消費者が集っていたと言え、小規模ながら内容の充実した自転車展であった。しかし、ブレーメン同様、本展も地域ユーザーショーの域を脱しておらず、現在は国際的なビジネスの場として相応しいとは言えない。

来年は開催を早め2010年2月5日～7日の3日間、近隣のカールスルーエメッセに会場を移し、ブレーメンのようにアウトドア展との共同開催になる。この変更が功を奏するか来年の動向も注視したい。

以上

（デュッセルドルフ事務所）